

サルトルと現代

— 来日50周年にあたって —

20世紀最大の知識人サルトルは、ボーヴォワールとともに1966年来日して、熱狂的な歓迎を受けました。そのときの様子を映像で振り返りながら、何度も直接会って議論を交わした者として、その人物像を伝えるとともに、50年後の今日の世界でサルトル思想の持つ意味を考えます。

たしかに彼のような大知識人を求める時代は過ぎ、現在では彼の本が争って読まれることもなくなりました。しかし彼の提起した問題が解決されたわけではありません。たとえば「第三世界は郊外に始まる」と言ったのは、当時のサルトルでした。それはまるで移民や難民の問題で苦しんでいる今日の世界を予言しているように見えます。

このような問題は、日本にとって無縁なことなのでしょうか。いったい半世紀前と何が変わり、何が変わらなかったのか。そのことも講座のなかで探っていきます。



撮影 中野 義樹

すずき みちひこ
講師：鈴木 道彦 獨協大学名誉教授

フランス文学者。1929年東京生。1953年東京大学卒。獨協大学名誉教授。元一橋大学教授。出発点はブルースト研究で、特に『失われた時を求めて』の主人公の無名性を世界で初めて立証した論文で知られる。何回かのフランス滞中で、サルトル、ボーヴォワールとも親交を重ねた。現在はサルトル最後の大作『家の馬鹿息子』全5巻の監訳を準備中。

著書 『サルトルの文学』（紀伊國屋書店）、『マルセル・ブルーストの誕生』（藤原書店）
『越境の時』（集英社新書）、『異郷の季節 新装版』（みすず書房）
『フランス文学者の誕生 マラルメへの旅』（筑摩書房）ほか。

訳書 ブルースト『失われた時を求めて』全13巻（集英社） 2001年度読売文学賞、日本翻訳文化賞受賞。
サルトル『嘔吐』、同『家の馬鹿息子』I～IV（共訳、人文書院）
ファンン『地に呪われた者』（共訳、みすず書房）ほか。

日時

3月4日(土) 14時～16時(13時開場)

場所

獨協大学 天野貞祐記念館大講堂

東京メトロ日比谷線・半蔵門線直通 東武スカイツリーライン「松原団地駅」* 西口徒歩5分
*2017年春「獨協大学前<草加松原>」に改称予定 ※車でのご来校はご遠慮ください

受講

無料 定員500人

当日先着順 事前申込不要

共催：草加市

Jean-Paul Sartre

2016年度

獨協大学オープンカレッジ特別講座 獨協大学エクステンションセンター ☎048-946-1678 〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1